

## 五木の三畳系（三宝山帯の二枚貝化石）

熊大 理 牧野 耕治

上記の巡検が平成11年10月31日（日）に実施された。天気は晴れ、熊大教センター前に集合し、田中 均先生の案内で、計13人、3台の車に分乗して出発した。今回の目的は球磨郡五木村仰烏帽子岳に産出する三宝山帯の二枚貝化石の採集である。この化石産出地点は平成8年度卒業の小山秀臣君が見つけた産地であり産出化石量の少ない三宝山帯の中で、現在も二枚貝化石が採集できる。

約3時間かけて仰烏帽子岳の麓の元井谷に到着、登山道入口から約30分登った地点が目的地である（図1）。昼食後、早速N-1地点の山斜面で採集開始し、転石ではあるが二枚貝化石をかなりの量採集できた。今回はN-1地点の露頭は確認できなかったが、以前厚さ約30cmほどの二枚貝含頁岩層を確認している。N-1地点の二枚貝化石は非常に密集しており、三角貝の *Gruenewaldia decussata* の他、*Palaeocaldita*、*Bakevellia*、*Triaphorus* などの二枚貝化石が珊瑚、海綿化石と共に産出する（写真1）。N-2地点からは石灰質頁岩層から疎らではあるが *Gruenewaldia decussata*、*Gruenewaldia woehrmanni*（図2）を確認、採集した。これらの三宝山帯の二枚貝化石は三畳紀後期（Carnian-Norian）の時代を示すテチス二枚貝化石であり、この三宝山帯のテチス二枚貝化石群と内側の河内ヶ谷二枚貝化石群（内帯のものも含む）の対立は日本列島の形成を論ずる上で考慮すべき事実である（Tamura, 1992）。またこの谷の転石としてメガロドン石灰岩が存在することから、テチス二枚貝化石とメガロドン石灰岩との密接な関係を改めて確認することができた。

参加者は全員目的の二枚貝化石を採集でき、みな満足して帰宅の途についた。最後に今回

の巡検にあたり終始丁寧に案内していただいた田中先生に感謝申し上げて、巡検会報告とする。

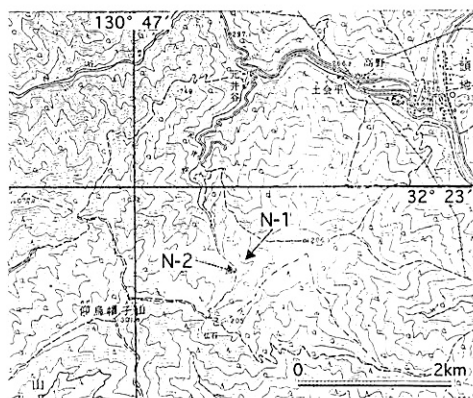


図1 化石産出地点

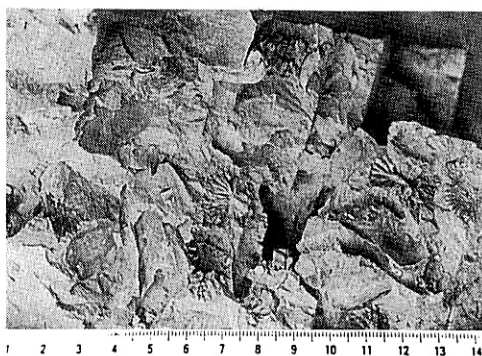
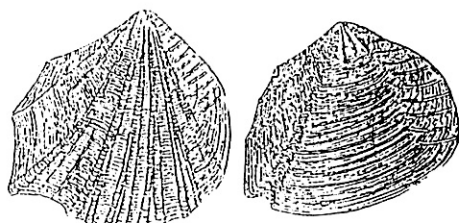


写真1 N-2地点の二枚貝化石産状—珊瑚や海綿と共に産出する様子



*Gruenewaldia decussata* *Gruenewaldia woehrmanni*

図2 今回採集できたテチス二枚貝化石群中の三角貝（田村, 1994）